

# みんなでシェイクアウト —市民が一斉に防災訓練を実施

宮城県沖地震から40年となる6月12日の「市民防災の日」に、仙台市総合防災訓練を行いました。自分の身を自分で守る動作を身に付けるため、昨年から行っている市民参加型のシェイクアウト訓練（身体保護訓練）を今年も実施。訓練に先立ち、新たに開設したホームページ「みんなの訓練サイト」でも参加を呼び掛け、5万6千人以上が訓練に参加しました。当日は、午前9時に地震が発生したと想定し、参加者は学校、職場などそれぞれの場所で、頭を守



▲校内放送で訓練用の緊急地震速報が流れ、一斉に机の下に潜り込む児童(幸町南小学校)

▲実動訓練で、救出された負傷者に応急処置を施している様子(宮城県消防学校)

市政トピックス

## 盛岡市で「東北絆まつり」開催



▲盛岡市役所前をスタートし、中央通りを練り歩いたパレード

東北6県の夏祭りが一堂に会する「東北絆まつり2018盛岡」が、6月2・3日に盛岡市で開催され、2日間で約30万3千人の来場者でにぎわいました。

東日本大震災からの復興と支援への感謝、東北の連携を発信するため、「東北六魂祭」の後継として昨年の仙台市開催から始まった東北絆まつり。最大の見どころとなるパレードでは、約1・2キロメートルにわたり東北6県の祭りが連なつて演舞を披露しました。仙台からはすずめ踊り、伊達武将隊など総勢170人が参加。沿道に集まった観客から大きな歓声が上がリ、拍手が送られました。仙台七夕飾りで美しく彩られた

市政トピックス

る、机の下に潜るなど「自助」のための動作を実践しました。また、「公助」の取り組みとして、自衛隊や災害時の応援協定締結団体など17団体が参加し、宮城県消防学校で実動訓練を実施。相互に連携を図り、住民の救護や物資輸送など実践的な訓練を行いました。地震があった際に素早く身の安全を守る行動が取れるよう、多くの市民が災害への備えを確認する日となりました。

市政トピックス

## 「新・仙台人」の皆さんにごみ分別の方法をお伝えします

市職員が市内の事業所を訪問し、他市町村から本市に転入した「新・仙台人」に家庭ごみの分け方を説明する出張セミナーを始めました。1回目は青葉区内の事業所を訪問。新・仙台人の会社員の方々と一緒に、模擬ごみを使って実際に資源とごみを分別する作業を行いました。参加者からは、「分別に迷うごみの、正しい分け方を知ることができて良かった」という声が聞かれ、家庭ごみの分別ルール

市政トピックス

## 西公園に初代市長石の碑の説明板を設置

西公園内にある遠藤庸治初代仙台市長の石碑脇に、遠藤氏の業績など石碑に記された内容を解説する説明板を設置しました。明治22年に初代市長に就任し、通算3期市長を務めた遠藤氏は、仙台市徒弟実業学校（現・仙台工業高等学校）や仙台市簡易商業学校（現・仙台商業高等学校）を開校し、市営電力・市電・上下水道事業などの実現に尽力しました。

石碑脇に植えられている桜は、「八重紅枝垂桜」という品種。遠藤氏が榴岡公園をはじめ市内各所に増やし、京都の平安神宮創建時に寄贈するなど普及を進めたことから、「遠藤桜」とも呼ばれています。



を学んでもらう機会となりました。

●出張セミナーを希望する事業所はお問い合わせください  
問 家庭ごみ減量課 ☎214・8229



市政トピックス

## 国家戦略特区フォーラム2018を開催

5月10日、仙台特区について考える「国家戦略特区フォーラム2018」を、せんだいメディアアテークで開催しました。

はじめに市長が、女性活躍・社会起業のための改革拠点をテーマに特区を活用してきた事例を紹介。特区制度活用によるビジネスチャンス拡大に向けて、事業者や市民に連携を呼び掛けました。

その後、二つのパネルディスカッションを実施。まちづくりを担う人材育成など地域の活性化に向けた特区の活用や、ドローンの防災・減災部門での実用化など近未来技術の実証について、活発な意

市政トピックス

## 七北田川クリーン運動&アユ放流会

七北田川の清流を守り、ふるさとへの愛着心を育ててもらおうと、6月3日、七北田川流域で一斉清掃活動とアユの放流会を行いました。平成3年に始まったこの活動は、今年で28回目。清掃活動には、町内会や各種団体、周辺の企業等から約1400人が参加し、760キロものごみを回収しました。清掃活動終了後は、アユがすめる川になるようにとの願いを込め、子どもたちの手によるアユの放流会を実施。子どもたちは「元気に育ってね」などと楽しそうに話しながら、アユを川に放ちました。



# 3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよくりの本を「紹介します」。

### 「3・11と心の災害」



蟻塚亮二、須藤康宏／著 大月書店 刊

福島第1原発事故が傷つけたのは、福島県浜通りの被災地の集落や土、森の環境だけではありません。人の心もそうです。睡眠障害、さまざまな身体症状、幻覚やパニック…。相馬市で被災者の精神的ケア支援の診療所長を務める蟻塚医師は、来院者たちの悩みに、「PTSD（心的外傷後ストレス障害）ではないか」と気付きました。

原発事故の衝撃、家族や古里と引き離された悲しみ、異郷での長い避難生活のストレスが心の傷となって癒えないまま、被災者を苦しめているのです。目に見えぬ心の災害を報告する本書は、克服へ「共に悲しめる絆」の大切さを訴えます。

### 「東日本大震災4年目の記録 風評の厚き壁を前に」



寺島英弥／著 明石書店 刊

「風評は一時の『風』でなく、被災地の復興を妨げる『壁』になった」。東日本大震災、福島第1原発事故の被災地取材してきた著者の実感でした。

福島、宮城の水産業、農業などの現場で人々が苦闘してきたのは、実態のない風評のために、販路を絶たれ、安値を付けられ、あるいは市場を失い、復興への希望をそがれる現実でした。その壁は海に向こうにもあります。石巻のホヤ養殖の漁師らは、大消費地だった韓国の「放射能の不安」を理由にした輸入禁止措置が解けぬまま、ゼロからの再出発を模索しています。風評は人の心に根差すものでもあり、ゆえに難題なのです。

※紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585